

# 活力新聞

発行所  
（株）シルクステビア  
志摩市浜島町浜島2902  
TEL (0599)-53-2055

## 柔かい朝日と新緑の葉

### 連載を迎えて 〜ご挨拶〜

この活力新聞がお客様のお手元へお届けするタイミングがわからないので、こんばんにちわ。『活力新聞』発行担当の山本です。

先日の創刊号から1カ月。早いものですね。たった1カ月と言うか、もう1カ月と言うか、あつという間にすこし易い季候から寒い季候への移りかわってしまいました。仕事でパソコンを使用する機会も増えましたが、気がつくとも手足が冷えています。体を動かしたり、温かい飲み物で身体を温めるのが一般的ですが、私は前号に少しご紹介いたしました、趣味の「よさこい踊り」の舞踊を憶えがてらに、体を温めています。

さて、今回の活力新聞ですが、正直非常に困った事

があります。新聞の見出しです。皆さんの関心を引き、内容に沿ったタイトル……。考えただけでも頭を悩ます出来事です。ホトホト困り果て素人ながら、お得意のインターネットで調べてみました。便利な世の中になりましたね。今回はそんなインターネットで得た編集手法を鵜呑みにし、お届けします。どこら辺を参考にしたのでか分析しながらお楽しみください。

### ステビア農法と 〜8年間の軌跡〜

活力新聞創刊号でもご紹介した「十兵衛」小寺さんと、ちようど同じ頃よりステビア農法をとり入れられている田所さん。お米や家庭菜園の他に80mのイチゴハウスを2つ手がけられています。

この日がちようどマコモ収穫日だったようで、挨拶



前回の活力新聞創刊号

も早々に長年使ってらつしやる収穫用カッターと腰袋を携え、田所さんはあつという間に2mはあろうマコモ畑へ突き進みマコモを収穫されていました。あまりの手際よさに圧倒され、肝心の「マコモ」の写真を撮影し忘れてしまう始末。突撃の迷惑極まりないお宅訪問にも関わらず、新鮮な「マコモ」を頂きました。元々はキャベツ栽培用として、栽培にはステビアパウダーを使用されていたのですが、キャベツもイチゴも葉っぱが深い緑色に成長し、その発育ぶりが良いことから、マコモなど、他の栽培にも広く使われるようになったとのこと。



颯爽とマコモを収穫する田所さん

### 色んなカタチ 〜活力あそび〜

毎日18時になるとチビッコギヤングが家にきます。甥っ子と姪っ子です。活力を語る上では外せない存在です。健康への第一歩は決

まった時間に食事をすることお医者さんからアドバイスをいただいたので、出来る限り心がけるようにしています。その時間になると決まって家の廊下をダンダンと走る爆音が近づいてきます。チビッコ

ギヤング到来の合図です。第一声の「じーちゃん、ホオジロサメであそぼ！」が挨拶がわりです。『いいよお〜』と返すと、既に食事をすませている甥っ子は、私の近くに陣取り、約2分おきに私の茶碗の量を確認しに来ます。それほど遊びたいのがうかがえます。



毎回、子供の頃の自分ができるように遊んでいかを模索しながら全力で遊びます。さすがに最近はこちらのエネルギーが持たない事が分かったので、大人の知恵をフルにつかい、こちらが疲れず子供達のエネルギーを

を沢山消費させるような遊び方を発案するようにしています。とはいえ、遊びにも本気でおつきあいしていますので、多少はおおめに見てもらえるだろうと勝手に思っています。

しかし、子供って鋭いです。私から遊びを中断されない様に、事あるごとに「じーちゃん、まだおつて〜なあ〜」と釘をさしてきます。帰宅の時間も差し迫ると、甥っ子はトイレに行つて遊びが中断されるのが嫌なのか、トイレに行くのを全力で我慢して遊びつづけます。その気迫は凄まじいもので、遊びのあとの尿の量が物語っています。

甥っ子の父親の仕事は漁師です。漁に出掛ける時何カ月も家を不在にするので、少しの間も無駄にしたいくない子供心かと思うと、父親代わりとはいきませんが、私も家を空ける時は、甥っ子には一言伝えるように心がけようと思いましたが、止むなく帰宅と言った終わりの時の、甥っ子の半泣きいやそれ以上かな？（笑）あの時の顔をななるべく曇らせないように心掛けたいものです。